

主 論 文 要 旨

報 告 番 号	① 乙 第	号	氏 名	水 谷 克 洋
主 論 文 題 名 Intraosseous venous structures adjacent to the jugular tubercle associated with an anterior condylar dural arteriovenous fistula (舌下神経近傍の骨内静脈構造とAnterior condylar dural arteriovenous fistulaの関連について)				
(内 容 の 要 旨) <p>Anterior condylar dural arteriovenous fistula (AC-DAVF) は舌下神経管周囲に発生する比較的稀な硬膜動静脈瘻とされている。その発生母地の静脈としてAnterior condylar veinやAnterior condylar confluenceなどが提唱されてきたが、過去に報告された症例では舌下神経管以外の骨内に動静脈瘻を認める症例が多数指摘されていた。この動静脈瘻の治療には通常、血管内治療による経静脈的塞栓術が選択される。この治療法では塞栓を行う静脈構造の詳細な術前の検討が必須であるが、今回の研究以前にはこの領域の骨内静脈路を詳細に検討を行った報告は存在しなかった。そこで、このAC-DAVFの発生母地となりうる骨内の静脈について当院での症例をもとに後方視的な検討を行った。まず正常静脈解剖症例と思われる未破裂脳動脈瘤例50例を対象にCT-Venography (CTV) を用いて舌下神経管周囲の骨静脈路の探索を行った。50例100側のうち32例46側で舌下神経管の頭側にある頸静脈結節 (jugular tubercle) 内に静脈路を認めた。この静脈構造は常にACVと接続しており、また43側ではACVに加えてPosterior condylar vein, jugular vein, clival diploic veinなどの周囲の静脈路と骨内静脈を介して接続を有していた。この静脈路をJugular tubercle venous complex (JTVC) と名付けた。続いてAC-DAVF症例7症例で動静脈瘻のある位置の正確な評価を行った。7例内に9か所の動静脈瘻を認めた。詳細な検討によりうち3か所は古典的なACVに動静脈瘻を認めたが、3か所はJugular tubercle内のJTVCに、3か所はJugular tubercle外にある骨内静脈路に動静脈瘻を認めた。Jugular tubercle外に形成された動静脈瘻もその多くが正常解剖例で指摘されたJTVCと周囲の静脈路をつなぐ骨内静脈の走行部位に概ね一致していた。</p> <p>以上の結果からAC-DAVFは舌下神経管周囲のACVを含めた骨内静脈路に形成される動静脈瘻であることが明らかとなった。また正常解剖例では骨内の静脈路は複数の接続を持つものが多数であったがAC-DAVFでACV以外の骨内の静脈路に動静脈瘻を持つ症例では単一の静脈路のみが動静脈瘻の導出路として使用されており、この骨内の静脈路内の血栓化がAC-DAVFの形成に寄与している可能性が示唆された。</p> <p>本研究は今まで明らかでなかったこの領域の骨内静脈路の存在を明らかにした。前述のとおり効果的なAC-DAVFの治療のためには動静脈瘻の形成された静脈路の正確な評価が必須であり、治療を実際に行う上でも非常に重要な研究となった。</p>				